

第4学年2組 算数科学習指導案

日 時 平成23年6月10日（金）第5校時

場 所・授業者

ゆっくりどどんコース 4年2組教室

竹中 公香

じっくり コース 4年生多目的教室

杉本美希子

じっくりじっくりコース 4年生ワークスペース

五十川弘隆

1 単元名 わり算のしかたを考えよう（わり算の筆算）

2 指導の立場

本単元の目標と「学習指導要領」との関連、及び既習内容とのかかわり

単 元 の 目 標	学 習 指 導 要 領
<p>数の相対的な大きさや既習の計算のしかたをもとに、2, 3, 4位数÷1位数の計算方法を進んでみいだそうとする。 (算数への関心・意欲・態度)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2, 3, 4位数÷1位数の計算のしかたを、既習の計算方法をもとにして考える。 ・何倍かを求めたり、1とみる大きさを求めたりするときにも除法が用いられることを数直線を用いて考える。(数学的な考え) ・2, 3, 4位数を1位数でわる筆算の手順に基づいて、計算が筆算で確実にできる。 ・「除数×商+あまり=被除数」の関係を用いて、除法の計算の確かめをすることができる。 (数量や図形についての技能) ・整数の除法において、被除数、除数、商及びあまりの間の関係について理解する。 (数量や図形についての知識・理解) 	<p>(A (3))</p> <p>整数の除法についての理解を深め、その計算が確実にできるようにし、それを適切に用いる能力を伸ばす。</p> <p>ア 除数が1位数や2位数で被除数が2位数や3位数の場合の計算の仕方を考え、それらの計算が基本的な計算を基にしてできることを理解すること。また、その筆算の仕方について理解すること。</p> <p>イ 除法の計算が確実にでき、それを適切に用いること。</p> <p>ウ 除法について、被除数、除数、商及び余りの間の関係を調べ、次の式にまとめること。 (被除数) = (除数) × (商) + (余り)</p>

本単元でわり算の筆算を学習する。既習のかけ算九九1回適用のわり算をもとに、徐々に被除数の数範囲を拡張していく。本単元では、除数が1位数のわり算を扱う。

3年生で、 $63 \div 3$ のように九九1回適用の範囲を超えても計算ができるように学習してきた。習得してきたことをもとに活用の範囲を広げてきた。

4年生では、 $72 \div 3$ といった十の位の数がわりきれない除法の学習から展開される。これは、 $63 \div 3$ を十の位と一の位に分けて考えれば計算できると理解した児童にとっては、被除数を70と2に分けてしまい、どうしたらよいかわからなくなる。このような困難さをともなった計算から導入し、徐々に被除数の数範囲を2位数から3位数というように広げ、筆算で形式的に処理するよさを味わせるようにする。

本時では、 $917 \div 3$ の計算を扱う。商の十の位に空位の0がある筆算である。 305 を35と計算することも考えられるので筆算の手順に従った計算の仕方を確認することができる。

4年生は、1学級40人の2学級である。そこで、算数の学習では、1学級を習熟度別の「ゆっくりどどん」「じっくり」「じっくりじっくり」の3コースに分けた少人数指導を行っている。本時の筆算の仕方を考えることも「ゆっくりどどん」「じっくり」では途中を省略してもかまわないことを理解させていく。「じっくりじっくり」は、十の位が空位の場合の筆算ができるようにする。

 は商の一の位が空位になる場合を扱い、「ゆっくりとどんどん」では自分の力だけで計算させる。「じっくり」では、自分で考えその後みんなを確認していく。「じっくりじっくり」では、みんなを確認しながら計算する。課題に対する本時のまとめを行い、本時の学習の確かめとして  問題に取り組む。

4年生の児童は、明るく自分の思いや考えを堂々と発言する児童が多い。一方で、やや雑な面もある。そこで、本単元では特にノートの使い方に気を付けていく。1マス1つの数字を記入し、余裕をもってノートに記入し、位に気を付けて計算できるようにする。

「じっくりじっくり」は、ノートに筆算を記入する時間を少しで短縮するためにも式と筆算の枠をあらかじめ記入したプリントを活用していく。

筆算の「たてるーかけるーひくーおろす」のアルゴリズムを確実に定着させるように指導していく。また、用語としてわり算の答えは、「商」であることも定着させる。

3 研究内容にかかわって

<p>基礎的・基本的な知識・技能の習得及び思考力・表現力を育てる指導のありかた ～算数科・生活単元の学習を通して～</p> <p>研究内容1・・・基礎的・基本的な知識・技能が身に付く単元指導計画の工夫</p> <p>①算数的価値の位置づけ</p> <p>②知識・技能を習得場の位置づけ (練習問題・発展問題等の位置づけ)</p> <p>③教えることと考えさせることの明確化</p> <p>研究内容2・・・思考力・表現力を育てる1単位時間の指導と評価の工夫</p> <p>①1単位時間の学習過程の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・無駄のない導入 ・必然のある課題 ・練習問題の位置づけ ・評価規準の明確化 <p>②少人数指導の工夫</p> <p>③考えを深める交流のあり方</p> <p>研究内容3・・・既習学習の学習を生かす学習環境の工夫</p> <p>①話し方・聞き方の指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・筋道立てて説明する ・分からないことが言える ・仲間の考えを聞く <p>②ノート指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学年の発達段階に応じたノート指導のあり方 <p>③ノート展</p>

研究内容1 ②

単位時間の中で、 問題「 $783 \div 6$ 」と  の網掛け問題「 $639 \div 6$ 」と「 $522 \div 4$ 」はどのコースでも必ず扱い、技能の定着を図る。

研究内容2 ①

どのコースも練習問題ができるように、導入・課題で無駄な時間がないようにする
ゆっくりとどんどん・じっくり・・・導入時間の短縮、「考えをもつ」では効率よく行い、 問題では時間を決めて行う。

じっくりじっくり・・・前時の復習から本時の問題、課題へとつなげる。「考えをもつ」「深める」では、一斉指導によるスモールステップで指導し時間短縮をする。

②

ゆっくりとどんどん・・・練習問題が、全部できるように指導をしていく。

じっくり・・・練習問題が半分はできるように指導をしていく。

じっくりじっくり・・・計算の仕方をスモールステップで指導していく。

5 単元指導計画 (全11時間)

概観	時	本時のねらい	主な学習活動	評価規準
2けた÷1けたの計算	1	(2位数)÷(1位数)のわりきれの場合の計算ができる。	<p>1. 問題を理解する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">72まいのおり紙を3人で同じ数ずつ分けま す。1人分は何まいになるでしょう。</div> <p>・式を考える。</p> <p>2. 課題をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">(何十何)÷何の計算のしかたを考えよう。</div> <p>3. 自分の考えをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図をかいて考える。 ・位の部屋を用いて考える。 ・言葉で考えを書く。 <p>4. 考えを交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・筆算のしかたを知る。 ・たてる、かける、ひく、おろすの筆算の手順を確認する。 <p>5. 問題2を提示する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">84÷4を筆算で計算しよう。</div> <p>6. まとめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">10がいくつ分あるかを考えれば、今までと 同じようにわり算の答えを求めることができ る。</div> <p>7. 確かめる。★【P. 115】の計算練習問題を与える。 (じっくり) (どんどん) ・10のまとまり6つ分を3つに分けることから、6÷3で考える。 ・何百を割る計算も同様に考 える。</p> <p>8. 振り返る。</p>	<p><関心・意欲・態度></p> <p>何十の割り算を硬貨や図などを使って考えている。</p> <p><知識・理解></p> <p>何十・何百を1位数でわる除法の計算原理や方法が分かる。</p>
	2	(2位数)÷(1位数)であまりのある場合の筆算のしかたが分かり、計算ができる。	<p>1. 問題を理解する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">67÷4の計算のしかたを考えましょう。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・67÷4はわりきれないぞ。 ・どうやって筆算をするのだろう。 <p>2. 課題をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">あまりのあるわり算の筆算のしかたを知ろう。</div> <p>3. 考えを交流する。</p> <p>あまりのある筆算のしかたについて知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・商とわる数、わられる数との関係を知る。 ・わる数×商=わられる数 ・わる数×商+あまり=わられる数 <p>4. 問題2を提示する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">83÷5の筆算をしましょう。</div> <p>5. まとめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">あまりのあるわり算の筆算も、大きな位からわ り進んでいけばよい。</div> <p>6. 確かめる。★【P. 116】の計算練習問題を与える。 (じっくり) (どんどん) ・類題(筆算)に取り組む。 ・より多くの類題(筆算)に取 り組み、習熟を図る。</p> <p>7. 振り返る。</p>	<p><知識・理解></p> <p>何百何十を1位数でわる除法の計算原理や方法が分かる。</p> <p><技能></p> <p>あまりのある除法の筆算の計算ができる。</p>

	3	(2位数) ÷ (1位数) であまりがあり、末尾が0のとき、工夫して筆算をすることができる。	<ol style="list-style-type: none"> 問題を理解する。 $82 \div 4$の筆算のしかたを比べよう。 <ul style="list-style-type: none"> $82 \div 4$はわりきれないぞ。 何が違うのかな。 課題をつかむ。 一の位が0になるときの簡単な筆算のしかたを考えよう。 自分の考えをもつ。 つばさ君の方が簡単にできるな。 考えを交流する。 問題2を提示する。 $41 \div 2$の筆算をしましょう。 まとめる。 一の位が0になるときは、そのままあまりとすればよい。 確かめる。★【P. 116】の計算練習問題を与える。 (じっくり) (どんどん) ・類題(筆算)に取り組む。 ・わられる数が3けたのわり算のしかたを考える。 振り返る。 	<技能> 末尾が0になり、あまりのある筆算を工夫して計算できる。
(2けた) + (1けた)の計算	4	何百÷何を100のいくつ分に見つけて答えを見つけるとともに、3位数÷1位数を位ごとに計算すればよいとに気づき、筆算のしかたを理解する。	<ol style="list-style-type: none"> 問題を理解する。 次のわり算をしよう。 ① $600 \div 3$ ② $639 \div 3$ ・3けたのわり算は初めてだな。 課題をつかむ。 3けた÷1けたの答えの見つけ方を考えよう。 自分の考えをもつ。 ・600を、100のまとまりが6つ分として考える。 ・ $639 \div 3 \rightarrow 600 \div 3 = 200$ $30 \div 3 = 10$ $9 \div 3 = 3$ 考えを交流する。 筆算のしかたを知る。 問題2を提示する。 $446 \div 2$ まとめる。 3けた÷1けたの筆算も位ごとに計算していけばよい。 確かめる。★【P. 116】の計算練習問題を与える。 (じっくり) (どんどん) ・筆算の手順を確かめながら計算する。 ・答えの確かめ方を確認する。 ・類題に取り組む。 ・類題に取り組む。 振り返る。 	<数学的な考え方> 既習の除法の手順と同じに計算できると考える。 <知識・理解> 商やあまりの間に成り立つ関係を理解することができる。
(3けた) + (1けた)の計算	5	3位数÷1位数で、答えが3位数になる筆算ができる。	<ol style="list-style-type: none"> 問題を理解する。 $639 \div 4$の筆算のしかたを考えよう。 ・前時との違いを明らかにする。 課題をつかむ。 その位でわりきれないときの筆算のしかたを考えよう。 自分の考えをもつ。 ・600と30と9に分けて考える。 ・筆算の書き方を確かめる。 考えを交流する。 まとめる。 位ごとに分けて考えれば、それぞれの位を割っていけばよい。 確かめる。★【P. 116】の計算練習問題を与える。 (じっくり) (どんどん) ・硬貨の模型を使って、分け方を考える。 ・4位数や5位数の問題を行う。 振り返る。 	<関心・意欲・態度> 既習内容をもとに除法の答えを見つけようとする。 <技能> 3位数÷1位数わり算の筆算を行うことができる。

小	時	本時のねらい	主な学習活動	評価規準
	6 本 時	商が3位数で空位のある場合の筆算のしかたを、既習をもとに考え、計算することができる。	<p>1. 問題を理解する。 $917 \div 3$の筆算のしかたを考えましょう。 ・答えがどれくらいになりそうか予想する</p> <p>2. 課題をつかむ。 十の位に商がたたないときの筆算の $917 \div 3$のようなわり算の筆算を考えよう。</p> <p>3. 考えをもつ 4. 考えをまとめる 5. 考えを交流する 6. 確認問題を 7. まとめる 8. 振り返る</p> <p>3. 予想する 4. 考えをもつ 5. 考えを交流する 6. 確認問題を 7. まとめる 8. 振り返る</p> <p>3. 一斉に問題を 4. 空位0の途中 5. 確かめる 6. 確認問題を 7. まとめる 8. 振り返る</p>	<p><数学的な考え方> 商に0がたつた場合、簡単に書けばよいと考える。</p> <p><技能> 空位のある筆算の計算をすることができる。</p>
(3けた) +	7	商が2位数になる場合の筆算の方法が分かり、筆算で計算することができる。	<p>1. 問題を理解する。 $347 \div 5$の筆算のしかたを考えよう。 ・これまでの筆算との違いを見つける。 ・筆算で、百の位に商が立たないぞ。</p> <p>2. 課題をつかむ。 百の位に商がたたない時の計算のしかたを考えよう。</p> <p>3. 自分の考えをもつ。 ・筆算の手順について確かめる。 ・初めの位で割れないときの計算の仕方を確かめる。</p> <p>4. 考えを交流する。 5. 問題2を提示する。 $① 576 \div 4$ $② 576 \div 6$</p> <p>6. まとめる。 百の位に商がたたない時は、十の位に商をたててわりすすめればよい。</p> <p>7. 確かめる。★【P. 116】の計算練習問題を与える。 (じっくり) (どんどん) ・筆算の手順を確かめながら類題に取り組む。 ・計算原理を理解して、類題に取り組む。</p> <p>8. 振り返る。</p>	<p><数学的な考え方> 既習の方法を適用すればよいと考える。</p> <p><技能> 百の位に商がたたない時の計算の仕方が分かる。</p>
	8	被除数が4位数に拡張されても、筆算の計算原理がわかり、筆算を行うことができる。	<p>1. 問題を理解する。 $2538 \div 3$の筆算のしかたを考えよう。 ・今までの学習との違いを考える。</p> <p>2. 課題をつかむ。 (4けた) ÷ (1けた)の筆算のしかたを考えよう。</p> <p>3. 自分の考えをもつ。 ・3桁÷1桁の計算の仕方を確認する。</p> <p>4. 考えを交流する。 5. 問題2を提示する。 $① 3375 \div 5$ $② 7602 \div 3$</p> <p>6. まとめる。 (4けた) ÷ (1けた)の筆算も3けた÷1けたのように、大きな位からわり進んでいけばよい。</p> <p>7. 確かめる。★【P. 116】の計算練習問題を与える。 (じっくり) (どんどん) ・類題に取り組む。 ・類題に取り組む ・外国の筆算の仕方を知る。</p> <p>8. 振り返る。</p>	<p><数学的な考え方> 3位数までの除法の筆算の仕方から、4位数÷1位数の筆算の仕方を考える。</p> <p><技能> 既習の計算をもとにして、4位数÷1位数の計算を、筆算でできる。</p>

何倍かをもとめるわり算	9	ある数がもとにする大きさの何倍かを求めるとき、除法が用いられることを理解することができる。	<p>1. 問題を理解する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">青いテープが24m、赤いテープが8mあります。青いテープの長さは赤いテープの何倍でしょう。</div> <ul style="list-style-type: none"> 問題の意味を理解し、式に表す。 </p> <p>2. 課題をつかむ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">テープ図にあらわして、何倍かもとめよう。</div> </p> <p>3. 自分の考えをもつ。 <ul style="list-style-type: none"> テープ図の表し方を確認し、テープ図をかいてみる。 計算で答えを求め、テープ図はどのことか確認する。 1つ分は1倍であることを確かめる。 </p> <p>4. 考えを交流する。</p> <p>5. 問題2を提示する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">親リスの体重は126gです。子リスの体重は9gです。 (1) 親リスの体重は、子リスの体重の何倍でしょう。 (2) 子リスの体重を1とみたとき、親リスの体重はいくつにあたるでしょう。</div> </p> <p>6. まとめる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">ある数がもとにする数の何倍かであるかをもとめるには、わり算を使うとよい。</div> </p> <p>7. 確かめる。 <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;">(じっくり)</td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;">(どんどん)</td> </tr> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> テープ図にかいて確かめる。 類題に取り組む。 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 類題に取り組む。 </td> </tr> </table> </p> <p>8. 振り返る。</p>	(じっくり)	(どんどん)	<ul style="list-style-type: none"> テープ図にかいて確かめる。 類題に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 類題に取り組む。 	<p><数学的な考え方> 乗法と倍の関係から類推して、何倍かを求める時には、除法を用いればよいことに気づく。</p> <p><技能> 十の位では割り切れないが一の位まで計算し、割り切る計算ができる。</p>
(じっくり)	(どんどん)							
<ul style="list-style-type: none"> テープ図にかいて確かめる。 類題に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 類題に取り組む。 							
1つ分をもとめるわり算	10	1つ分の大きさを求めるときも、除法が用いられることに気づき、計算することができる。	<p>1. 問題を理解する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">青いテープの長さは24mで、黄色いテープの長さの4倍だそうです。黄色いテープの長さは、何mでしょう。</div> <ul style="list-style-type: none"> 問題の意味を理解し、式に表す。 前時との違いを明らかにする。 </p> <p>2. 課題をつかむ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">もとになる量を求める式のたてかたを考えよう。</div> </p> <p>3. 自分の考えをもつ。 <ul style="list-style-type: none"> テープ図の表し方を確認し、テープ図をかいてみる。 計算で答えを求め、テープ図ではどのことか確認する。 </p> <p>4. 考えを交流する。</p> <p>5. 問題2を提示する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">ショートケーキのねだんは258円で、クッキーのねだんの6倍です。 クッキーのねだんはいくらでしょう。</div> </p> <p>6. まとめる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">全体と何倍かが分かっているとき、1になる量をもとめるには、わり算を使うとまとめることができる。</div> </p> <p>7. 確かめる。 <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;">(じっくり)</td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;">(どんどん)</td> </tr> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> 類題に取り組む。 テープ図をかいて確かめる。 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 類題に取り組む 計算で求めて、テープ図で確認する。 </td> </tr> </table> </p> <p>8. 振り返る。</p>	(じっくり)	(どんどん)	<ul style="list-style-type: none"> 類題に取り組む。 テープ図をかいて確かめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 類題に取り組む 計算で求めて、テープ図で確認する。 	<p><数学的な考え方> 何倍かを求めるときには、除法が用いられることが分かる。</p> <p><技能> 問題場面を数直線に表すことができる。</p>
(じっくり)	(どんどん)							
<ul style="list-style-type: none"> 類題に取り組む。 テープ図をかいて確かめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 類題に取り組む 計算で求めて、テープ図で確認する。 							
練習	11	練習問題を通して、習熟を図り、事後評価を行う。	<ul style="list-style-type: none"> 練習問題に取り組む。 評価問題に取り組み、単元を振り返る。 					

6 本時のねらい

商が3位数で空位のある場合の筆算のしかたを、既習をもとに考え、計算することができる。(6/11)

7 本時の展開

過程	ねらい	学 習 活 動			指 導 ・ 援 助			
つかむ	<p>問題文を読み、本時の学習課題をつかむことができる。</p> <p>本時の課題をつかみ、解決の見通しをもつことができる。</p>	<p>1. 問題を理解する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> $917 \div 3$ の筆算のしかたを考えましょう。 ・答えがいくつぐらいになるか予想する。 </div> <p>2. 課題をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> 十の位に商がたたないときの筆算のしかたを考えよう。 </div>			<p><ゆっくりとゆっくり></p> <ul style="list-style-type: none"> 前時までの問題との違いに気付き、およその商を予想する <p><じっくり></p> <ul style="list-style-type: none"> 前時までの問題との違いに気付く <p><じっくりじっくり></p> <ul style="list-style-type: none"> 復習することで、筆算のやり方を確認し、前時と本時との問題の違いに気付く 筆算がしやすいようにプリントを用意する。 			
考えをもつ	<p>見通しをもって計算の仕方考えることができたり、計算が正しくできる。</p> <p> 問題で本時の学習を深める</p>	<p><ゆっくりとゆっくり></p> <p>3. 自分の考えをもつ</p> <ul style="list-style-type: none"> ノートに自分の考えた方法で計算をする。 <p><支援></p> <ul style="list-style-type: none"> 机間指導で、計算が進められない児童へ既習学習を想起させ、計算の進め方を考えさせる。空位になる数字のヒントを与える。 <p>4. 考えをまとめる。</p> <p>5. 考えを交流する。</p> <p>6.  問題に取り組む。</p> <p>「$783 \div 6$」</p>	<p><じっくり></p> <p>3. 一斉に筆算の計算を途中までする</p> <p>4. 空位の所をどうするか考える</p> <ul style="list-style-type: none"> 考えたことをノートや学習プリントを使って筆算を行う <p>5. 考えを交流する</p> <p>6.  問題に取り組む。</p> <p>「$783 \div 6$」</p>	<p>3課題をつかむ</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> 十の位に商がたたないときの筆算のしかたを考えよう。 </div> <p>4. 一斉に筆算の計算をする</p> <ul style="list-style-type: none"> 筆算の仕方を確かめながら進める。 <p>5. 空位が0の計算途中で0をかく場合と書かない場合を提示し比べる。</p> <p>6. 筆算をプリントに書き、もう一度計算しながら確かめる。</p> <p>7.  問題を一斉指導で取り組む。</p> <p>「$783 \div 6$」</p>	<p><ゆっくりとゆっくり></p> <ul style="list-style-type: none"> 空位は0をたてて計算すればよいことに気付く。 途中の計算を省略してもよいことが理解できる。 <p><じっくり></p> <ul style="list-style-type: none"> 空位は0をたてて計算することが理解できる。 途中の計算を省略してもよいことが理解できる。 <p><じっくりじっくり></p> <ul style="list-style-type: none"> 空位は0をたてて計算することを指導する。 途中の計算を省略していくよさを指導する。 <ul style="list-style-type: none"> 九九が充分定着していない児童には九九カードを利用する。 問題と課題と式、筆算がかけるプリントを用意する。 <p><ゆっくりとゆっくり>・本時の学習を生かして一の位に0をたてることのできる。</p> <p><じっくり>・本時の学習を生かして一の位に0をたてることのできるように机間指導する</p> <p><じっくりじっくり>・全員で筆算の仕方を確認し、一の位に0をたてることのできる。</p>			
確かにする	<p>計算技能の定着を図る</p>	<p><まとめ></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> 十の位に商がたたない場合は、0をたてて次の位のわり算へ進んでいくとよい。 </div> <p> で本時の学習の確かめをする。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 33%; border-right: 1px dashed black; padding: 5px;"> 7. $639 \div 6$ $418 \div 2$ $629 \div 3$ $522 \div 4$ $915 \div 7$ </td> <td style="width: 33%; border-right: 1px dashed black; padding: 5px;"> 7. $639 \div 6$ $418 \div 2$ $522 \div 4$ </td> <td style="width: 33%; padding: 5px;"> 8. $639 \div 6$ $522 \div 4$ </td> </tr> </table> <p>自己評価を行う</p>			7. $639 \div 6$ $418 \div 2$ $629 \div 3$ $522 \div 4$ $915 \div 7$	7. $639 \div 6$ $418 \div 2$ $522 \div 4$	8. $639 \div 6$ $522 \div 4$	<p><ゆっくりとゆっくり>・・・ が全部解くことができる。答え合わせは、各自で行えるように答えを準備する。</p> <p><じっくり>・・・ (1)(4) ができてから次の問題へ進むようにする。答え合わせは、各自で行えるように答えを準備する。</p> <p><じっくりじっくり>・・・ (1)(4) を一斉指導で計算する。</p> <p><技能></p> <p>空位のある筆算の計算をすることができる。</p> <p>自己評価を見届ける。</p>
7. $639 \div 6$ $418 \div 2$ $629 \div 3$ $522 \div 4$ $915 \div 7$	7. $639 \div 6$ $418 \div 2$ $522 \div 4$	8. $639 \div 6$ $522 \div 4$						